

月刊 ORANGE SUNSHINE 第10号

発行日: 令和3年12月11日(土)

第10号では以下をお伝え致します。

- ◆新人戦(ウィンターステージ)の結果
- ◆始動ミーティング内容
- ◆新チームに向けて(主将・TSリーダーから)

◆新人戦情報

11月21日(日)に玉野スポーツセンターで新人戦ウィンターステージが行われました。試合は正規のルールとは異なり、10分ハーフ(インターバル3分)、ランニングタイム制、7人制で行われました。

◆対戦相手

第1試合 香川・松山・愛媛大学2合同チーム

第2試合 島根大学

第3試合 (準決勝) 広島・広島修道大学合同チーム

◆メンバーリスト

MEMBERS LIST

The graphic displays the team members categorized by position. The background features a stylized orange and red design with the text 'ORANGE SUNSHINE' and 'TOKUSHIMA UNIVERSITY'.

Position	Name	Number
AT	HIROTO	#18
	YOSHIHIKO	#67
	AKITO	#5
	SHUSAKU	#28
	RENTARO	#56
MF	KEISUKE	#6
	AKIRA	#41
	TAKERU	#25
	SHUNSUKE	#47
YUSEI	#15	
JUN	#4	
DF	AKITO	#77
	YOSHINORI	#64
	YOTA	#27
	KENTO	#51
TS	HANA	
	SUMIRE	
	RIN	
	TOWA	
	MAI	

◆新人戦結果

1試合目	1Q	2Q	Total
徳島	4	3	7
香川・松山・愛媛大学2合同	0	0	0

徳島得点者

#6 遠藤圭亮 (1Q 30秒, 2Q 30秒, 2Q 4分)

#18 増田啓翔 (1Q 3分, 1Q 7分)

#15 神田悠生 (1Q 5分)

#67 江草美彦 (2Q 9分)

	1Q	2Q
GB勝率	71%(5/7)	50%(1/2)
ショット数	9本	6本

2試合目	1Q	2Q	Total
徳島	3	2	5
島根	0	0	0

徳島得点者

#28 吉竹周作 (1Q 3分, 6分)

#6 遠藤圭亮 (1Q 7分, 2Q 2分)

#47 三上春佑 (2Q 9分)

	1Q	2Q
GB勝率	60%(3/5)	60%(6/10)
ショット数	8本	5本

3試合目 (準決勝)	1Q	2Q	Total
徳島	1	0	1
広島・広島修道大学合同	2	0	2

徳島得点者

#28 吉竹周作 (1Q 8分)

広島得点者

#10 (1Q 3分), #4 (1Q 4分)

	1Q	2Q
GB勝率	0%(0/3)	80%(4/5)
ショット数	1本	4本

第1試合

vs 香川・松山・愛媛②

1年生にとって初めての公式戦。緊張感の漂う中、試合開始のホイッスルが鳴る。#41 谷内滉(MF)のF.O.でスタート。相手のイリーガルプロシージャーで徳島ポゼッション。右上#6 遠藤圭亮(MF)が素早いダッチで相手を抜き去り右ランシュー。開始30秒で先制点が決まる。得点后、#41 谷内がF.O.を勝ち切りそのままショットをするが、惜しくも枠外。相手にチェイスを取られるが、#77 山田朗人(DF)のチェックでボールを奪い返し、徳島クリア。#51 花口拳大(G)のパスミス、クリーン前で#18 増田啓翔(AT)がケアし、そのままショットが決まる。徳島のOF時間が続く中、5分、#15 神田悠生(MF)の得点が決まる。続いて7分リスタート後、右下から右横のスペースに入り込みまくリシュー。#18 増田の2得点目が決まる。その後、攻防が続くが相手に得点を許すことなく第1Q終了。得点は4-0。

第2Qは相手のイリーガルクロスによる徳島エキストラでスタート。開始30秒で#6 遠藤が得点が決まる。その後、相手OFが続くが、ナイスDFで守り抜く。4分、#6 遠藤の3得点目が決まる。得点后、#25 矢口丈留(MF)のF.O.、相手にポゼッションを取られる。相手ショットを#51 花口がセーブし、徳島クリア。9分、#67 江草美彦(MF)が裏からかけ、見事ショット。そのまま守り抜き試合終了。得点は7-0でいいスタートを切る。

第2試合

vs 島根大学

続く第2試合目、F.O.でかき出されたボールを、#77 山田のナイスGBで徳島ポゼッションからスタート。そのままショットを打つが相手ゴールのナイスセーブで得点ならず。そのまま相手クリアに入るが、#27 新田陽大(DF)のナイスチェックで徳島ライド成功。そして3分、右横の空いたスペースでパスをもらい、#28 吉竹周作(MF)のショットが決まる。得点后、F.O.でかき出されたボールがラインアウトし、相手ボールからリスタート。徳島ライドに入るが、#77 山田がナイスチェックでボールを奪う。6分、#28 吉竹の2得点目が決まる。続いて7分、#6 遠藤の得点が決まる。無失点のまま第1Q終了。得点は3-0。

第2Qは相手のイリーガルクロスによる徳島エキストラでスタート。キャッチミスで#5 市場暉人(AT)がGBでケアし、OFが続く。左横から#67 江草のショットが惜しくも枠外。クリーンバイオレーションで相手ボールからリスタート。相手ボールダウンで徳島クリアに入る。トップから#6 遠藤の得点が決まる。本日5得点目。その後、攻防が続く9分、右横で裏からパスをもらい、そのまますぐに右ランシューを打つ。#47 三上春佑(MF)の得点が決まる。その後もショットを打つが、得点ならず。そのまま試合終了。得点は5-0。DF力の目立つ試合となった

第3試合

vs 広島・広島修道

そして準決勝となる第3試合目。#41 谷内のF.O.で上手にかき出すが相手に拾われ相手ポゼッション。ナイスDFで相手のボールダウンを誘うが拾いきれず相手の攻撃が続く。そして2分、相手に先制点を奪われる。続く#25 矢口のF.O.も相手に取られ3分、2得点目を決められる。しかし次のF.O.で#41 谷内が自ら拾い徳島ポゼッション。チャンスを掴むが、キャッチミスで相手にボールを奪われDFに切り替わる。その後相手のミスでOFに切り替わるが、クリーン前で惜しくもキャッチミスしチャンスを逃す。#51 花口のナイスセーブでボールを奪い徳島クリア。そして7分、左上#15 神田からのパスをそのまま左横からショット。#28 吉竹の得点が決まる。その後も攻め続けるが得点は決まらず、相手にリードを許したまま第1Q終了。得点は1-2。

続く第2Q、相手ポゼッションからスタート。ナイスDFで徳島クリアに入るも、パスミスでクリア失敗。その後何度かチャンスが訪れるが、小さなミスで得点に繋がらず劣勢が続く。相手のボールダウンを#18 増田のナイスGBで徳島クリア。右横から#67 江草がショットを放つが惜しくも枠外。そして7分、相手のスラッシングで徳島エキストラ。何とんでもここで点を取りたい徳島。#47 三上がショットを放つがセーブされ得点ならず。続き、#6 遠藤、#67 江草もショットを放つが枠外で第2Q終了。得点1-2で広島・広島修道大学に敗れる。

◆新人戦・1年を振り返りコーチから



1年間ありがとうございました。2年目の1回生コーチは長いようで短かった密度の濃い1年間でした。昨年度に引き続きコロナ禍で活動開始が遅れたり、活動が制限されることもありましたが、1年前の経験を踏まえて試行錯誤しながら活動できたのではないかと思います。今年度の1回生の練習は、1回生コーチや上回生だけでなく院生OBや岡本さん、脇川さんなど社会人OBの方にも練習に参加していただきました。OBの方に、練習に参加していただける環境づくりができたことは、1回生が様々なことを学んで成長できる良い機会になったと思います。

ただ、新人戦では優勝という結果を持ち帰れなかったことは、まだまだ足りない部分があったからではないかと思います。コーチの指導力が不足していた部分もあったかもしれませんが、それぞれの選手がラクロスと真剣に向き合う時間が短かったところが大きいのではないかと思います。今回の悔しさを忘れずラクロスと向き合う時間を増やしてくれれば、結果はついてくると思います。

1回生がこの1年で知ったラクロスなんて本当のおもしろさの1割ぐらいしか伝えきれてないです。だからこそこれから先もっとのめり込んで、ラクロスの楽しさを知って欲しいです！来年以降のリーグ戦でみんなが活躍してくれることを期待しています！

増田尚輝（なおき M2年 1回生HC）

1年間を振り返って

今年度1回生ACを務めた仲田一輝です。今年度1回生チームはチームコンセプトを「Strong」、目標を「新人戦優勝」とし、活動をスタートしました。コロナウイルスの影響で始動が遅れたり、途中で自粛を挟むなど思うようにいかない時期もありましたが、最終的には1on1を武器とした良いチームになったと思います。また、今年は岡本さんや脇川さんなどOBの方が練習に参加してくださり、良い環境で練習ができたと思います。ありがとうございました。

初のコーチで教え方やメニューに悩んだり正直大変でしたが、1回生が素直で真面目に取り組んでくれたのでやりがいがあり、楽しかったです。自分の伝えたいことを言語化する能力などこの半年を通して自身も少し成長できたと感じています。今年の1回生チームという形は終わりましたが、1回生には今後も真面目に練習に取り組みリーグ戦に向けて頑張ってもらいたいと思います。

ウィンターの感想

準決勝で敗れたことを非常に悔しく感じています。しかし、今年、強みにしようと取り組んだ1on1で点を取りにくいラクロスができたのは非常に良かったと思います。特に予選はしっかり1on1をかけ大量得点を取ることができ、練習の成果が発揮されたと思います。準決勝で敗れた要因としては体力とシュート力が大きくあったと思うので、敗れた悔しさをバネに今後それらを補い、リーグ戦では優勝して欲しいと思います。

仲田一輝（おかず M1年 1回生AC）





1回生チームアシスタントコーチの24期高松京祐です。まず始めに1回生の為に練習参加や企画の立ち上げなど応援していただいたOBの皆様に感謝しております。ありがとうございました。

さて、1回生はウィンター優勝という目標を達成する為に練習してきましたがベスト4という結果に終わりました。「STRONG」という身体や精神、勝負が強いチームコンセプトのもと練習に励んできましたが、どちらが勝ってもおかしくなかった準決勝の広島戦では、そのチームコンセプトの「強さ」で負けてしまったことがコーチとして悔しく思い1回生に申し訳なく思います。試合後に流した涙や悔しい気持ちは引退するまで忘れる事なく4年間のラクロスキャリアに活かして欲しいと思います。今年のwinterステージでは4on4ルールでの開催でしたので、例年の1回生の状況より遅れを取っていると思います。学ぶ姿勢、挑む姿勢、発信する姿勢は僕が教えたと思うのでそれを実践し、また「強い徳大」が帰ってくることを願っています。

高松 京裕 (のすけ M1年 1回生AC)



1回生チームは「STRONG」という方針のもとウィンターまで練習に励んできました。今年は自粛期間が長く練習する時間は例年より少なかったですが、1回生はその分だけ自主練、ミーティングなどをしてラクロスに関わる時間を増やしてくれました。そのおかげもあり1回生は短期間でものすごい勢いで成長し、また目標であるウィンター優勝を狙えるところまで成長したと思います。

ですが、結果は準決勝敗退と言う悔しい結果で終わってしまいました。1回生チーム方針であった「強さ」で対戦相手の広島大学に負けていたし、シュートに持ち込むシーンはまで良かったのですが、決定力が課題となり、コーチとしてもっと何かできたんじゃないか、こうすれば良かったのではないかと悔しく思います。今回は残念ながら準決勝で負けてしまいましたがこの後が大事だと思っています。この負けから何を学ぶのか。こういった行動をするのか。

1回生はこの負けた悔しさをバネに今まで以上に頑張っって今後リーグ戦などで活躍してくれることを願っています。

小野 功馬 (こうま M1年 1回生AC)



1回生コーチ

◆個人タイトル受賞者

#6 遠藤圭亮（けいすけ 1年 MF）がベスト7&得点王
#77 山田朗人（あきと 1年 DF）がベスト7に選ばれました。

#6 遠藤圭亮



ベスト7&得点王


#77 山田朗人



ベスト7



◆受賞者インタビュー




新人戦ウィンターステージを終えて、個人的にはベスト7、得点王というタイトルをいただいて今までの努力が報われた気がしたし、とても嬉しかったけどやっぱり自分はチームで優勝が一番したかったので今回の結果は残念に思います。準決勝で広島大学に負けた時初めは状況があまり理解できず、相手が喜んでるのを見て負けたという実感が込み上げてきて、とても悔しかったです。

今回の敗戦はあかつきに出られないという、とても大きな意味を持っていると思います。他大学はあかつきに向けての練習であったりと、より一段と強くなると思うので、それに負けないように自分達も何かしらの目標を持ってこれからの練習などに取り組んでいきたいと思っています。

今年はコロナという大きな問題を抱えたまま始まってサマーステージがなくなってそれでもみんながこのウィンターまでラクロスを続けて、成長できたのは先輩やコーチ陣達のおかげなので感謝の気持ちを忘れずにがんばります。


#6 遠藤圭亮 (けいすけ 1年 MF)



今回の新人戦でベスト7というタイトルを貰っちゃいました。個人としての目標は達成できたのですが、チームとしてはベスト4という結果になってしまい悔しいです。やっぱり自分たちに足りないのは得点力とクロスワークだと思いました。この冬にどれだけ上手くなるかが大事だと思います。つま恋でいっぱい試合経験を詰んで来年のリーグ戦に出て、出るだけじゃなくて結果を残したいです。お世話になった上回生への1番のお返しはファイナルで岡山大学に勝つことだと思うので、実現できるように努力します。

#77 山田朗人 (あきと 1年 DF)

◆インタビュー (TS編)




お疲れ様でした。新人戦のベンチに入るとなると、緊張するというよりは楽しみというワクワク感が大きかったです。みんなの初の公式戦を近くで見れる嬉しさ、どこまで勝ち進んでいけるかのドキドキ、いろんな感情がありました。いざ、試合が始まるとシュートをバンバン決めて無失点で抑えてるみんなの姿はカッコよかったですね。負けて悔しがっている選手達を見て、本気でラクロスに向き合っているんだなと胸が熱くなりました。目標であったウィンター優勝は果たせなかったけれど、みんなの真剣な表情やお互い盛り上げて楽しんでプレーしている姿が見れて嬉しかったです。

また、このウィンターベンチ入りで学んだこともあります。それは、スタッフ間の情報共有はとても重要だということです。タイムスケジュールがキツキツな中、TSそれぞれが得た情報を共有・整理することで効率的に動け、万全な状態で試合に挑めます。スタッフの動きも結果に関わってくると思うので、しっかり日頃からコミュニケーションをとり考えて行動していこうと思います。

やっぱり試合は楽しんだもの勝ちです！これからも1番楽しみながらベンチで選手を盛り上げていきます！

新開羽夏 (はな 1年 TS)



まずは同期のみんなウィンターお疲れ様でした。そして応援や1回生の成長のために全力を尽くしてくださったコーチ、OBG、先輩方本当にありがとうございました！私は初の公式戦のベンチに入り、緊張しましたがいざベンチに入ると本気でラクロスをして試合を楽しんでる同期を間近で見ることができて私も楽しかったうれしかったです。優勝を目指していた私たちにとってベスト4という結果は望んでいたものとは違っていただけ、ウィンターに向かって頑張ったものはこれからのラクロス生活に絶対に生きてくると思っています！私はまだ未熟でわからないことやできないことが多いけど、自分で積極的に先輩にアドバイスを求めたり、目を見て盗んだりしながら一個一個成長していけたらと思っています。これからも周りを巻き込みながら楽しんでラクロスをしていきたいです！

鮫島凜 (さめりん 1年 TS)



応援ありがとうございました!

◆始動ミーティング

12月4日(土)に2022年度目標・スローガン発表を行い、新チームが始動しました。目標を達成するため全員が同じベクトルで練習に取り組めるよう、活動方針を確認しました。

2022年度目標

『中四国制覇』

〈目的〉

徳島大学男子ラクロス部を3世代にわたり、肉体的にも精神的にも成長させ、**中四国3連覇**できるチームを作る。

チームスローガン

『倔強』

目標達成のため、どんな状況でも常に向上心と**Hungry**精神を持ち、
どんな困難にも打ち勝てる**Tough**な心と体を持ち合わせる。
一人一人が同じベクトルで**倔強**な魂を宿せ。
徳島の名を轟かせよう。

活動方針

『Hunger & Toughness』

常に向上心を持ち、**Hungry**に結果を求める貪欲さと、
サイズアップにより自信と**Tough**さを兼ね備えた強い選手を目指す。

◆主将より



2022年度の主将を務めます宮崎涼輔です！先日始動ミーティングを行い新チームが始動しました。2022年度はHunger & Toughnessというコンセプトのもと、中四国制覇を掲げます！食欲に点を奪うHungry精神とどんな場面でも屈しないToughさを兼ね備えた選手を目標とします。昨年、一昨年とコロナの関係で思ったように試合や練習ができずラクロス経験を充分には積みなかった私たちですが、今ラクロスをできるという楽しみと感謝の気持ちを忘れずに取り組んで行けたらなと思っています。まだまだ至らないところはありますがチーム一丸となり精一杯努力しますので応援の程よろしくお願致します。

2022年度主将 #0 宮崎涼輔

◆TSリーダーより



2022年度のスタッフリーダーを務めます岸瑞季です！

先日、新チームが始動し、「中四国制覇」を今年度のチーム目標として掲げました。私たちの代が1回生の時、先輩方が中四国制覇という目標を達成した瞬間を間近で経験しました。あの頃はスタンドから応援することしか出来なかった私たちが今は最上回生となり、チームを引っ張っていく存在となりました。あの感動の瞬間を私たちの代でも作るんだ。そしてそれを後輩達に伝えていくんだ。そういう気持ちで「中四国制覇」という目標を掲げました。

現在スタッフは計13人で活動しており、昨年に引き続きマネトレ制を取り入れ、普段の練習以外での活動も行っています。スタッフ組織では今年のチームコンセプトの1つである、常に向上心とHungry精神を持つことが大切であると考えています。普段の練習で向上心を持って活動することで、スタッフの仕事は無限大に広がるし、自分のやりたいことをとことん突き詰めることができます。もちろん組織として成長するためには一人一人の努力が欠かせません。スタッフ全員が多くのごことにチャレンジし、成功や失敗を繰り返しながら、成長していけるような組織を目指します。

コロナウイルスの影響により、思うように練習を行うことができない時期もありました。その度にOBGの皆様、保護者の皆様など様々な方々に支えられ助けられてきました。

その感謝の気持ちを忘れず、チームスローガンである「倔強」な精神で日々精進していきますので、応援の程よろしくお願致します。

2022年度TSリーダー 岸瑞季

◆新チーム

PL:33名
TS:13名
1回生:20名
2回生:10名
3回生:16名
計:46名



今後とも徳島大学男子ラクロス部の応援の程よろしくお願いいたします。

◆TEAM SPONSOR LINK



RS HOME

🏠 アイフルホーム徳島
アカウント



🏠 アイフルホーム徳島
人事グループアカウント



Instagram



◀ 第10号作成者
3年MG 岡部智希 (左)
1年TS 鮫島凜 (右)

